

# デジタルビジネス時代を 迎えて



一般社団法人 情報サービス産業協会 (JISA) 会長

横塚 裕志

## デジタルビジネス時代の到来

あらゆるモノがインターネットにつながる IoE (Internet of Everything) の時代は、これまででは考えられないほどの大量のデータが収集され、その解析如何では新たなビジネスの誕生を予感させます。

本年4月、産業構造審議会 情報経済小委員会「中間とりまとめ」<sup>※1</sup>においても、「データ流通量の爆発的な増大を背景として」「企業や個人の行動様式」を「大きく変化させ」「世界各国でビジネスモデルの革新を生み出している」と書かれています。

このような時代の到来は、既存事業を破壊的に変革すると同時に、新しい技術を獲得することで、従来価値に囚われない、イノベティブな事業を引き起こす絶好の機会に直面しているとも言えます。

## ビジネスを創造するソフトウェア

その一方で、現今の情報サービス産業は10月のマイナンバー制度を始め、2020年東京オリンピックや金融分野での大規模システム開発案件など旺盛な需要を受け、供給サイドとして多忙を極めています。また「攻めのIT経営銘柄」に代表されるように、ITは新たなビジネスモデルの創出や収益力強化のためのツールであると考えられるようになってきており、ますますソフトウェアの開発需要は高まるでしょう。

このように社会はソフトウェアに依存し、ソフトウェアによって形成されるようになってきています。

当産業の強みである高品質で、信頼性の高いソフトウェアは、社会及びビジネスのインフラとして大いに力を発揮するはずです。

## エコシステムによる貢献

情報処理推進機構 (IPA) ソフトウェア高信頼化センター (SEC) が、ソフトウェア・エンジニアリングセンターとして設立された当時から、JISAはSECと密接な連携を図ってきました。それぞれの会合に相互に委員派遣を行ったり、SECの成果を現場で活用してきました。ソフトウェア開発の基盤となる技術や統計データは、SECから数多く入手してきたと思います。

今後はこの連携を一層深めて「エコシステム」化していかなければいけないと思います。エンジニアはSECで理論を学び、実証実験を行い、自らの知見とする、その知見を持って現場に戻り実践する、この理論と実践の繰り返しから、ソフトウェア開発の現場はスパイラルアップするのだと思います。

デジタルビジネス時代の社会は、価値観が複雑で高度な知識を要求される社会でしょう。このようなエコシステムを通じて一人ひとりが成長し、社会の高度化に貢献していきたい、SECもJISAもその役割は大きいと思います。

### 【脚注】

※1 経済産業省、中間取りまとめ～CPSによるデータ駆動型社会の到来を見据えた変革～  
[http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shojo/johokeizai/pdf/report01\\_02\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shojo/johokeizai/pdf/report01_02_00.pdf), 2015年5月